

所属機関長各位

2025年度 研究助成のご案内について

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知の如く本財団は、研究助成事業と顕彰事業を2本の柱とする事業を展開しております。

このたび2025年度の研究助成事業として「臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究」の領域でより優れた学術研究・業績テーマに対して研究助成を行います。また、2022年度より本財団創立30周年を記念いたしまして、期限付ではありますが、新たな対象領域として「感染危機管理」を設けております。

早速ながら、本年度の研究助成金申請書を作成しましたので、お届けいたします。ご多忙中のところ、恐縮ではございますが貴機関の関係者にご伝達の上、2025年5月31日土曜日(当日消印)までに、申請者ご自身から本財団宛に申請くださいますようお願いの程、ご案内かたがたお願い申し上げます。

敬具

2025年3月15日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は
東京都台東区台東 4-19-9 山口ビル7
TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514
URL <http://www.kmf.or.jp> E-mail: info@kmf.or.jp



公益財団法人 黒住医学研究振興財団
2025年度 第33回 研究助成金募集要項

1. 研究助成事業の対象

研究助成は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究で、より優れた学術研究・業績を研究助成事業の対象とし、若手の育成（原則として50歳以下）を主眼としています（詳細については本財団ホームページ「よくあるご質問」をご参照ください。）。

2. 応募資格

医学関連の大学及びその他の教育機関、研究所並びに医療機関等において、本研究助成事業の対象領域において調査、研究に積極的に取り組もうとする個人とします。

ただし、大学教授及び国公立研究機関の部長並びにこれらに準ずる職位の方は除きます。

3. 対象領域

- | | | |
|---------|-------------|--------------------|
| ① 臨床化学 | ② 分子生物学（医学） | ③ 臨床微生物学 |
| ④ 臨床免疫学 | ⑤ 検査血液学 | ⑥ 人体病理学 |
| ⑦ 疫学 注1 | ⑧ 一般・生理学 | ⑨ <u>感染危機管理</u> 注2 |

の9つの領域とします。

注1：臨床検査・衛生検査についての集団(mass)を対象に扱う研究

注2：次なるパンデミック対応、バイオリスク管理、施設内感染防止、感染制御、
マスクギャザリング対策等

4. 募集期間

2025年3月15日（土）から2025年5月31日（土）までとします。

なお、郵送の場合は当日の消印まで有効です。

5. 研究助成件数及び研究助成額

研究助成額は、対象領域①～⑧は1件100万円を限度とし、助成件数は15件以上とします。

また、対象領域⑨は1件150万円を限度とし、助成件数は2件ないし3件とします。

6. 応募方法

所定の申請書に記入し、本財団 研究助成金選考委員会 宛に送付してください。

なお、提出部数は「原本と複写2部」の合計3部を送付してください。

☆申請書は必ず公益財団法人黒住医学研究振興財団のホームページからファイルをダウンロードしてご使用ください（年度毎に改訂されますのでご注意ください。）。

URL <http://www.kmf.or.jp/>

7. 審査方法及び通知

本財団の委嘱する審査委員が9つの対象領域ごとに審査したあと、選考委員会で選考審査を行い、理事会で研究助成の対象を決定します。その結果は、9月末日に本財団ホームページに掲載し、受贈者にその旨を通知いたします。

8. 研究助成金の贈呈

2025年10月31日（金）の小島三郎記念文化賞贈呈式にあわせて、研究助成金を贈呈する予定です。

9. 受贈者の研究助成金受領後の義務

以下の事項を研究助成金受領後(贈呈式後)、1年以内に本財団事務局へ提出していただきます。

- ① 研究期間は、原則として研究助成金受領後1年間とし、その研究結果について本財団指定様式にて2,000字以内で報告書を作成すること。1年間で終了しない場合は、中間報告として研究・会計報告書を作成すること。

(報告書は年報・本財団ホームページ・研究業績集に掲載させていただきます。)

- ② 会計報告については本財団指定様式にて作成すること。

なお、受贈者が研究結果を発表する口頭発表論文発表等には本財団の研究助成を受けた旨の附記(英字表記の場合は、「KUROZUMI MEDICAL FOUNDATION」)を必ずしてください。

※「研究報告書」の本財団事務局への提出が確認できない場合には、当該研究課題について贈呈した研究助成金の贈呈決定を取り消し、受領した助成金の返還を求めるとともに、所属する研究機関の名称等の情報を公表する場合があります。

10. 申請書類の提出先

〒110-8408

東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 研究助成金選考委員会 宛

(問い合わせ先)

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 事務局

TEL 03-5846-3504

FAX 03-5846-3514

E-mail info@kmf.or.jp

附記

- 所属機関長は、大学長、研究所長、病院長及びそれに相当する職域の長であることが必要となります。
- 応募の書類は、一切返却いたしません。
- 贈呈される助成金には、大学等の間接経費(事務処理経費)は含みません。

第32回研究助成金贈呈者の研究課題一覧 (2024年度) 参考

氏名	所属	研究課題	選考対象
いしくろ あきよ 石黒 旭代	山口大学大学院医学系研究科 臨床検査・腫瘍学講座 助教	早期ステージ肝細胞癌診断のための精化フェリチンを用いた新規測定方法の開発	臨床化学
いのうえ けんすけ 井上 雄介	徳島大学病院 医療技術部 臨床検査技術部門 主任臨床検査技師	多発性骨髄腫に対する抗 CD38 抗体医薬使用時の CD38 検出におけるフローサイトメトリー検査の最適化	臨床免疫学
おかの たかいち 岡野 隆一	神戸大学医学研究科 未来医学講座 バイオリソース・ヘルスケア 統合解析科学分野 特命講師 医学博士	アクアフォトミクスによる強皮症患者における皮膚硬化の新たな検査法の確立	一般・生理学
おぎ みき 荻 美貴	兵庫県立健康科学研究所 感染症部 主任研究員 医学博士	兵庫県内で重症例から検出されることのあるコクサッキーウイルス A2, A4, A6 の分子疫学解析とそれらの間での組み換えに関する研究	疫学
かさほろ ひでのり 笠原 秀範	大阪国際がんセンター 血液内科 特別研究員 医学博士	新規分子 MS4A3 の急性骨髄性白血病における意義の検討と診断・治療へ応用	検査血液学
きたがわ ひろき 北川 浩樹	広島大学病院 感染症科 助教 医学博士	末梢血検体を用いたマルチプレックス・デジタルPCRによる菌血症の迅速診断法開発	臨床微生物学
くろぎ しゅうたく 黒木 秀作	大分大学医学部 分子病理学講座 医学博士	膵癌の治療抵抗性関連分子 ANXA8 を標的とした新規治療法のためのコンパニオン診断検査法の開発	臨床化学
さかもと ゆうま 坂本 祐真	川崎医科大学医学部 免疫学 助教 医学博士	体細胞モザイクが惹起する重症自己炎症性疾患「VEXAS 症候群」の高感度変異解析法の確立	分子生物学
すずき えま 鈴木 瑛真	札幌医科大学医学部 感染制御・臨床検査医学講座 臨床検査技師	LC-MS/MS を用いた血中遊離テストステロンの測定法の開発	臨床化学
たなか みお 田中 美緒	宮崎大学医学部 感染症学講座寄生虫学分野 助教 医学博士	北海道における肺吸中感染実態解明に向けた包括的調査	疫学
にしこおりのあきみ 錦織亜沙美	岡山大学学術研究院保健学域 検査技術 科学分野 分子血液病理学 助教 保健学博士	IL-6 タンパク発現解析による特発性多中心性キャッスルマン病 (iMCD) の治療予測指標の確立	人体病理
なみの のぶいちろう 波多野裕一郎	大阪医科薬科大学 病理学教室 講師 医学博士	多重免疫組織化学を用いたミスマッチ修復タンパク発現状態の一切片解析法の確立	人体病理学
ひがしもと ゆうき 東本 祐紀	藤田医科大学 医療科学部 感染制御学分野 講師 医学博士	COVID-19 パンデミックによる小児ウイルス感染症感受性試者の増加は本当か?	疫学
ふくおか こうへい 福岡 講平	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 医長	小児脳腫瘍における骨髄 ctDNA メチル化解析による低侵襲分子診断法の開発	分子生物学
ふじもと たかひろ 藤本 崇宏	京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学 講師 医学博士	自己免疫性脳炎・脳症の診断材料の開発	臨床免疫学
ふなしま ゆみこ 船島由美子	国際医療福祉大学 福岡保健医療学部医学検査学科 講師 臨床検査学博士	フーリエ変換赤外分光法を原理とする IR バイオタイパーでの <i>Salmonella</i> 属菌 O 抗原型別モデルの性能検証	臨床微生物学
いまむら たけあき 今村 剛朗	東北大学大学院医学系研究科 微生物学分野 助教 医学博士	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における積極的疫学調査の有効性に関する後向き観察研究	感染危機管理
さとう めぐみ サトウ 恵	新潟大学大学院保健科学研究科 准教授 熱帯医学博士	「マダニ病原体マルチプレックス・網羅的検出系」と「マダニとマダニ媒介性感染症拡散数理モデル」の開発	感染危機管理
やまもと まさき 山本 正樹	京都大学医学部附属病院 検査部 講師 医学博士	感染症流行予測調査を推進するためのマルチプレックス抗体検査系の構築	感染危機管理

総申請者数

183名

研究助成金総額 1,820万円(19名)